

UCDAアワード2011報告会開く

生損保などから250人以上が出席



員教授)が講評した。ま

井順國氏
A理事の永
いてUCD
価結果につ
たほか、評
して講演し
行政」と題

報告会では、前金融庁
総務企画局長の内藤純一
氏が「契約者保護と金融



福田理事長



内藤氏

一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(福田
泰弘理事長、以下UCDA)は6月24日、日本外国特派員協会(東京
都千代田区)で「UCDAアワード2011報告会」を開催した。今
年3月に行った、生保23社の「総台通知」「インターネットサービ
ス」と損保9社の「自動車保険証券」の見やすさ・わかりやすさの評
価結果を発表した。当初は4月に開催予定だったが、東日本大震
災の影響で延期していた。当日は生損保各社や協賛企業などから25
0人以上が出席した。

前金融庁総務企画局長

内藤純一氏が講演

た、評価・選考に当たっ
た6人が「利用品質の確
保とコスト削減」をテー
マにパネルディスカッシ
ョンを行った。

あいつで福田理事長
は、エントリーした生損
保や協賛企業に感謝の意
を伝えるとともに、「ユ
ニバーサルな環境づくり
こそ、企業イメージの向
上に直結するものと確信
している」と強調。今後
も生活者と企業との円滑
なコミュニケーション構
築に向けて取り組んでい
くことを語った。

講演で内藤氏は、金融
庁がこれまで行ってきた
生活者保護に関する検討
や取り組みについて、そ
の変遷を紹介。現在はブ

供しているという姿勢
が見てとれた」と評価。
今春から施行された小学
校学習指導要領の狙いを
例に、文章とは「確かな
事実」と「頑健な論理構
成」を基本に、わかりや
すい日本語で伝えること
だと強調。「UCDAア
ワードの社会的意義はこ
のようなコミュニケーション
を普及して行くこと
ではないか」と結んだ。
パネルディスカッション
では、評価・選考に当
たった小池克弘氏(日本
代協認定保険代理士)、
佐々牧雄氏(ユーザビリ
ティ・コンサルタン
ト)、指澤竜也氏(ユー
ザビリティ
・エンジニ
ア)、前場
保氏(情報
デザイン
)、萩原
忍氏(元財

を説明した。また、「国
内ではこれまで、販売部
門が非常に大きなウエー
トを占めていて、商品開
発部門が必ずしも大きな
位置付けではなかった部
分もある」と指摘。「今
後は、商品開発部門が顧
客ニーズを捉え、分か
りやすい商品を開発して
いくことが一層問われる
時代となっていくのでは
ないか」と述べた。

講評した永井氏は、前
回に比べて多くの企業で
改善が見られるとし、
「相手の立場に立つて伝
えるべき情報の内容や表
現、デザインを考えて提

団法人日本消費者協
会)、武者廣平氏(ソー
シャルデザイナー)の6
人がパネリストとなり、
ファシリテーターの八杉
淳一氏のもと、今回、ア
ワードなど各賞を受賞し
た企業の帳票やウェブサ
イトを取り上げながら、
今後のコミュニケーション
ツールの改善に向けた
ポイントを解説した。
なお、報告会もよう
写真・上は同協会ウ
ェブサイト(<http://www.ucda.jp/jp/award/2011/sokuhou.shtm>)で配信してい
る。